

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370101875		
法人名	株式会社 協栄テックス		
事業所名	グループホーム田園 2階		
所在地	岩手県盛岡市下太田榊14-2		
自己評価作成日	平成27年8月22日	評価結果市町村受理日	平成27年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2014_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0370101875-00&Pr_ofCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

保育園や児童センターを近隣に持ち地区の子供会や園児との地域交流を楽しんでいる。又近代的な住宅地にある環境を活かし散歩で街並みを楽しんでいる。一人一人の生活のリズムに合わせ散歩・クラフト・縫い物等自由に行いのびのびと生活していただいている。体力低下予防に取り組み、毎日歩行運動と軽体操、足踏み昇降を行い運動機能向上、筋力アップ、バランス感覚を磨き転倒予防に心がけている。又バランスのとれた食事と日光浴、外気浴で心身ともに健康で安全、安心な生活を支援している。地域との交流・家族との交流を大切に皆様に支えられ求められるグループホームを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・事業所は、地域の社会資源(子供会、学童保育、保育園、小中学校、老人福祉センター、推進会議委員等)と日常的な交流が図られており、地域からの信頼・協力が得られている。
・理念を具体化し、年間目標を定め、現状の課題、目標、目標達成に向けた具体的な取組内容を話し合い、介護の質の向上に取り組んでいる。目標は、1階2階共通の事項、階の独自の事項とし、振り返りし、次年度の計画に活かしている。
・職員の笑顔が利用者の笑顔を誘い、明るく和やかな雰囲気が感じられる。職員同士、利用者への丁寧な言葉かけについて好感が持てる。また、職員は、自己の向上を目指し、資格取得に努力・研鑽している。
・本社は、ISO1001、ISO1401を取得しており、書類が整理・整頓され、事務管理が優れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた環境・安心できる生活の提供は、ケアプランに組み入れており、園の理念は常に見えるところに掲示している。また、全体会議でユニットごとの年間目標を立てケアの指針としている。	理念は、見える所に掲示している。また、理念を分析し、年間目標に取り入れている。ケアプランにも組み入れ、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々に運営推進協議会の委員になって頂き、協力や助言を頂いている。地区の誠文館学童クラブとの地域交流を図ってる。子供会の資源回収に協力したり田端地区1班に加入しており地区のお祭り等に参加する等、地域活動に参加している。	地区のお祭りや子供会の資源回収に協力している。学童クラブや保育園との交流が定着し、ホームの夏祭りには50人を超える参加があった。また、市の小中学生職場体験事業や認知症サポーター養成講座を開催する等、地域と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大宮中学校の職場体験を受け入れ、認知症の理解やグループホームの役割を知ってもらっている。また、行事等に地域の子供会もお誘いし認知症の理解や支援の方法を知って頂いている。認知症サポーター養成講座を毎年行っている。盛岡市の小中学生職場体験受け入れにも登録している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長・民生委員・近隣保育園・福祉センター職員にも委員に加わって頂き、行事や日々の生活状況を報告したり、委員からは意見やアドバイスを頂く等している。毎年七夕の笹や正月の水木を頂いている。又認知症サポーター養成講座が縁で年に数回地域交流会をしている。防災では適切なアドバイスを頂いている。	運営推進会議は定期的開催され、事故報告に意見を頂いたり、励ましの言葉を頂く等、活発に運営されている。また、委員から、七夕の笹や小正月の水木等行事の材料を提供して頂くなど、協力を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点や疑問点は電話で問い合わせる等している。また、難しい事例は包括支援センターの職員に相談したり助言を頂く等連携を図っている。介護職員適正化委員会から講師をお招きし勉強会を開催している。	市の担当課には、認定更新や事故報告、外部評価の届け出等指導助言を得ている。また、地域福祉課との連携も図っている。難しい事例については、包括支援センターに相談し、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個人の意思を尊重し、危険がない限り自由にして頂き見守りしている。玄関の施錠に関しては防犯上の理由から行っているが、季節の良い時期は玄関を開放し自由に入出しベンチで外気浴をして過ごしている。利用者様の希望があれば共に外出や散歩に出掛けている。エレベーターで一階に気分転換に来られる方もいる	高齢者虐待防止研修会を受講している。玄関ポーチ部分にベンチを置き、季節の良い時期には、玄関を開放している。利用者は、自由に入出し、ベンチで外気浴をしている。苦情・虐待について、第三者委員会を設置し、委員は、推進会議の委員も兼ねている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議・リスクマネジメント委員会で討議し、些細なことでも見逃さないよう日々職員同士で注意を払い、未然に防げるよう努めている。又勉強会も開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要なときは、担当者が市の職員と協力しながら対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約に関しては十分な説明をするともに疑問や不安等を伺い理解して頂き契約及び退去となっている。また、入居・退居後でも問い合わせに関しては丁寧に対応している。改定時は、書面で提示した上で問い合わせに関しては随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進協議会に家族代表に参加して頂き、助言・協力を頂いている。また、面会時や行事等の際に要望等を聞くように努めている。その他にも、玄関にご意見箱を設置している。日々発せられる言葉から利用者の希望・要望を汲み取るようにしている。必要な場合はアンケート等を頂いている。	家族代表が運営推進会議に参加し、避難訓練や事故報告などに意見を述べている。面会時や行事参加時に要望等を聞いている。玄関の施錠についてのアンケートを実施し、防犯・安全のため施錠は必要との意見を頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会を設置し多面的な角度から話し合い全体会議にかけて反映している。また事務所に職員の疑問質問要望入れを設置している。年度初めに職員個々に意見、要望を聞く機会を設けている。	運営に関しては、広報・行事地域活動、スキルアップ勉強会、リスクマネジメント等8つの委員会を設置し、各委員会の意見を全体会議で報告し、周知徹底を図っている。また、ポータブルトイレの使用を嫌がる方に、便座シートを使用したらスムーズに排泄が出来るようになった等、職員の工夫を業務に反映できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を中心に職員が各々役割を持ち、よりやりがいや評価しやすい環境が作られている。また、講習会への参加や資格取得を積極的にバックアップしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップ勉強会委員が主体となり園外・園内研修を調整、実施している。資格取得の為の研修等への参加に配慮した勤務体制とし、また資格取得後は会社既定の手当てを支給している。園外研修参加者は後日園内勉強会で報告し職員全体に反映して。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会の会議や地域ケア会議などに参加したり、グループホーム協会主催の交換研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時、事前面接時に本人や家族の心配事や不安を傾聴し状況把握に努めている。又出来る限り本人も施設見学に来ていただき不安の解消できるよう信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族状況を把握したうえで困っている事、不安や要望を汲み取り支援の方向性を決めている。面会時ために近況報告をし本人、家族の想いを大切共に考え信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との面会、話し合いなどで本人にあったサービス利用の提供を自事業所のみでなく情報の提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の個性を活かして今出来るところを大切に信頼関係を築きながら職員と共に生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院介助をお願いしたり季節の行事等に参加して頂くなど共に過ごす時間を大切にしている。又外出、外泊時の支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時節を大切にお盆のお墓参りや家族との外出など途切れる事の無いよう支援に努めている。	自宅への外泊や墓参、敬老会等、家族が送迎し、利用者と家族の触れあう機会を多くするよう配慮している。親戚・知人が訪れて会話が続かないときなど、さり気なく支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの利用者同士の交流に加え職員が仲介をすることで他の利用者が交わり関わりを築けるような支援。一つの作品を協力して完成するなど。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族にその後の様子をお伺いしたり心配事を傾聴している。又転居の際には情報を共有したり転居先に面会に行くなどをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の想いに耳を傾け日々の会話や何気ない行動から思いや希望を汲み取れるよう努めている。	入浴介助時や、夜間1対1の時の会話で、要望が把握できることがあり、申し送りノートを活用し、共有している。いつも明るい方が、夜間の職員の見廻りを、監視カメラがついているから気を付けた方がよいと、家族に訴えたこと等の、家族からの情報をノートで共有したりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活の様子情報を家族、担当ケアマネ、本人にから伺い日常の会話や手伝いなどの行動から生活歴を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	言動、表情、体調から変化を汲み取りトータルチェック表を参照し体調管理に気を付けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の支援の中で常にモニタリングをしており申し送りや3か月ごとの会議を通じて介護計画を作成している。ケアプランにモニタリング、希望・要望用紙も添付しており面会時は家族へ口頭でも説明を心がけ家族の希望や思いをお伺いしている。	介護計画は、ケース会議(3ヶ月に1度)で利用者全員の見直しをしている。職員は、担当している利用者(2~3名)のモニタリングをし、会議で評価し、計画作成担当者が介護計画を作成している。その計画を各フロアに周知し、利用者一人ひとりの目標を把握し、対応している。また、家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、介護支援経過の記録にて本人の日々の変化を記録し都度対応している。申し送りノートを活用し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用できるサービスの充実を図っている。本人家族の意見から必要なサービスを考え情報提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の中でお食事を開催し近隣の飲食店へ外出に出向いたり近隣の保育園や下太田児童センターの子供たちと交流を持つ等お互いを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病状の経過、家族の思いを受け止めそれぞれのかかりつけ医に受診して頂いている。緊急時夜間の往診などは園の協力医に往診を依頼。ご家族様には了解を頂いている。必要な場合は盛岡市消防署へ救急搬送を依頼している。	かかりつけ医とは、緊密な連携が図られている。通院は家族が行なうが、緊急時や家族の都合がつかない時は、職員が支援している。かかりつけ医の訪問診療を受けている利用者もいる。また、夜間緊急時には、協力医が往診することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化時には責任者に報告し指導の下協力医の指示を受けている。些細な変化を見逃さず早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、園での生活状況や、介護の方法等を情報提供し、入院中でも病院担当者と連絡を取り合いながら早期退院に向け支援している。必要なものを届けたり洗濯などの支援に努め、退院後はサマリーを活用し症状の変化に注意している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書にて指針を作成している。本人の意思を最大限に尊重し医師により終末期と判断され時、家族、医師、田園担当者会議にて本人に一番良い方向を検討している。又終末期の対応についてご家族の意向を把握し方針を職員と共有しながら日常生活を継続している。	契約時に、重度化や終末期の対応について、本人・家族に事業所の指針を示し、説明している。終末期と判断された時は、医師・看護師の協力のもと、出来る限り対応するが、看取り介護は実施していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを掲示している。又定期的に勉強会を開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災避難訓練の他自主訓練を行い避難の方法を全職員が身につけるよう努めている又訓練に地区の方々の参加をお願いしいざという時に協力して頂けるように体制づくりに努めている。毎月防災点検・9月の防災週間には防災備蓄備品の点検を行っている。	地域の方や運営推進会議委員の協力を得て、夜間想定を含め、火災避難訓練を年に2回行っている。緊急招集訓練等自主防災訓練も行っている。毎月の防災機器の点検や9月の防災週間には防災備蓄備品の点検を行っている。	夜間の避難訓練について、方法を工夫し、実際に夜間に訓練を行い、課題を把握し対応を検討されることを期待したい。自動通報装置の設置について、本社と検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格、性格を尊重し言葉使いをに配慮している。本人に合う地域の言葉で話し掛けるようにしている。	それぞれの生活歴や状態に配慮し、プライバシーを損ねない対応をしている。特に、入浴時や排泄時の声掛けに配慮している。食前食後の口腔ケア・排泄の介助の声掛けは、周囲に配慮されている。また、排泄の誘導は、利用者に合わせ「トイレ」「便所」「お手洗い」の言い回しを使い分けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がお好きな事が出来るように努めている。衣服を選びおしゃれを楽しんで頂く。玄関先のベンチで外気浴など自分の思いを表現し自己決定できるような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで生活ができるよう配慮している。その日の過ごし方の希望があれば体調を考慮したうえで気持ちに添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節を考慮したうえで好みの服を選んでいただいたり月に1回の福祉床屋を利用し好みのヘスタイルにするなどおしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付け等できる事をして頂いている。希望のメニューを取り入れ季節感のある食材を使い彩なども食欲をそそるよう工夫している。	献立は本社から示され、精密な栄養管理が行われている。台所は利用者の寛ぐホールと対面しており、各階毎に職員が利用者と会話しながら調理し、職員も同じテーブルで食事をしている。片付けを利用者も行っている。嗜好調査をし、好みは献立に反映されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いのある方には調理法を工夫し細かく刻み混ぜ込んだりして全量召し上がるよう工夫している。水分を摂らない方にはゼリーや果物で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けや誘導をしている。3か月に1回歯科の居宅療養管理指導を受けている。本人が難しい場合職員がブラッシングを提供している。夜間帯は義歯を洗浄剤に浸け清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立度の高い利用者様には定期的な声掛け。介助が必要な利用者様には定期的な誘導をしている。いずれも排泄チェック表を記録し汚染の軽減ができるよう支援している。	排泄については、トイレでの排泄を誘導している。おむつの使用を減らすことを目標とし、介護度4の方も、布パンツに尿取りパットを使用する等、本人も快適になり、経済的な負担も軽減でき、職員も介助の時間が軽減され、より触れ合いの時間が増やせている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽体操と歩行運動は日課となっており水分補給、繊維質の多い食品の摂取は工夫している。便秘薬の必要な利用者には主治医と連携し適切な便秘薬を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ローテーションを組み1週間に2～3回入浴を支援しているが本人の希望により回数を増やしたりして調整している。入浴介助時は職員と1対1のコミュニケーションの場となり楽しみにしている方もいる。	入浴は、1階は毎日入浴できる。2階は日曜日を静養日として浴室の準備はしていないが、必要時は1階で入浴が出来、特浴が必要な方は、デイサービスを活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後のテレビ視聴や馴染みの利用者同士の団楽で安心して就寝できるような時間を持っている。又何回も同じ事を確認される利用者の訴えは傾聴したり安心できる声がけで安眠できるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人一人の病気を把握しお薬説明書を参考に職員間共有している。服薬介助時は服薬確認シートを活用し誤与薬のないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴を大切にできる事はやっていたい。食器拭き、もやしのひげ取り等できるところは進んでやっていたい。季節行事の飾りつけや準備などは職員と一緒に楽しみながら行う事で社会参加になっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の食堂に景色を眺めながら歩いて外出に出かけている。近隣を散歩は日常的に行っている。敬老会は会場までご家族様の自家用車で送り迎えをお願いするなど家族との交流が持てるよう支援している。	散歩は、職員が見守りしながら行っている。玄関のベンチには、1階と2階の利用者が、体を寄せ合って、にこにこ話しながら外気浴をしている。歩いて近所の食堂に出かけ、外食を楽しんでいる。近くの自販機で飲み物を買うのを楽しみにしている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事務所で管理している。お金を持ってないと不安な利用者には家族の了解の下本人が所持している。お金を使用した場合はご家族に都度報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば対応している。電話や手紙は都度対応している。年末家族に出すクリスマスカードや年賀状は毎年恒例になっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はみんなで過ごす場と捉え季節ごとの装飾で四季を感じられるよう工夫している。各場所にソファや椅子を配置しゆったりと過ごせるパーソナルスペースとしている。行事の写真などを飾り思い出づくりを工夫し居心地良く過ごせるよう配慮している。	共有ホールの壁面には、利用者と職員と一緒に作成した、季節(切り絵の紫陽花、七夕、月見)の作品を飾っている。玄関の花壇やベランダには、季節の野草や草花が咲き乱れ、懐かしさを感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士でお茶を飲んだりゆったりと過ごすスペースがある。食堂から離れた両サイドの窓際にはソファを配置し自然を楽しめる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持参して頂けるようお伝えしている。回転いすや滑り易いカーペットは転倒の危険がある場合は家族と相談しながら臨機応変に対応している。	居室は清潔に整えられている。小箆笥の上には、母に抱かれた乳児のモノクロの写真と、利用者のかつての職場で撮影したカラーの写真が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるように張り紙をしている。部屋の場所が分かるように「〇〇さんのお部屋です」と居室ドアに大きく表札をつけている。又近隣にカレンダーや飾り物を置き目印になるよう工夫している。		